

令和5年度 土浦第一高等学校附属中学校 自己評価表

目指す学校像	<p>生徒：自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できる総合的な成長を目指す。 自己肯定感を持って自主的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認め国際的視野を持てるような成長を目指す。</p> <p>教員：自らの仕事の効率化を図り、余裕を持ち職場や仕事の内容における改善を行うことで、WLBの向上を目指す。 常にリスキングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、その知識の生徒への還元も目指す。</p> <p>学校：日本一で、国内教育のロールモデルとなるような学校を目指す。 整理整頓ができて、生徒が明るく学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 プロセス、ガバナンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。</p> <p>連携：保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良いより強い教育基盤の構築を目指す。</p>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 目指す人物像を育成する各種教育活動のねらいを全職員で共通理解し、計画的に実践すること 一人一人の生徒の特性に応じた柔軟な教育支援体制を整備すること 	①高い志（＝信念・厚意）の育成	<p>①高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。</p> <p>②生徒の自己理解を促し、高い目標設定と絶え間ない努力ができるよう、個別面談の充実を図る。</p> <p>③将来において、各界でのリーダーを目指すべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。</p> <p>④学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの活用、キャリア教育、進路支援などを通じて生徒が自ら進路を拓けること。</p>	A
	②自己理解による主体的学習態度の育成	<p>⑤授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。</p> <p>⑥しっかりしたタイムマネジメントと主体的に学ぶ姿勢を育て、効果的な学習活動を支援する。</p>	A
	③授業改善（AL型授業展開等）による生徒の理解度向上	<p>⑦指導法の研究を各教科で行い、深い学びの場の提供に努める。</p> <p>⑧研究授業の開催、相互授業参観、先進校視察や校内研修会を通して、授業改善及び指導力向上を図る。</p> <p>⑨生徒による授業満足度3.0以上を目指す。</p>	A
	④豊かな人間性の涵養による心理的安心の向上	<p>⑩基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、部活動や委員会活動等への積極的な参加を促す。</p> <p>⑪いじめを許さない心や、他者を思いやる心の育成により、豊かな人間関係づくりを図る。</p> <p>⑫個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや問題解決に向け支援する。</p>	A

	⑤探究活動・他校交流・大会参加等を通じて自己肯定感の向上	⑬探究活動を強く推進し、課題発見能力、課題解決能力の育成を図る。 ⑭自ら調べ、考え、発表する 姿勢を育て、主体的、対話的な深い学びにつなげる。 ⑮世界に通用する人材育成ができるよう、コミュニケーション能力、英語による発信力強化を図る。 ⑯国内外の大会、模擬国連などに積極的に参加し、グローバルな視野の育成を図る。 ⑰国内外の有識者による講演会、様々な背景を持つ生徒との交流などを積極的に行い、生徒の自信育成につなげる。		A
	⑥学校情報の積極的発信と保護者・同窓生・地域との連携	⑱学校の情報を積極的に発信するために、学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑲地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切にし、小中学校や近隣の方との交流を図る。		B
	⑦中学生と高校生の積極的交流の推進	⑳授業・部活動・探究学習などの内容を段階的に身に付けられるように、効率的な連携を工夫する。 ㉑附属中において人格形成、課外活動、言語能力などに重みをおき、総合的な学びを図り、高校での学びの基礎とする。		A
	⑧ICT機器の活用などによる効果的授業の実現	㉒ICT機器の効果的な活用を通じて、生徒の学習理解を幅広くサポートする。 ㉓授業改善を考える手立てとして、先進的な事例紹介等の機会を増やし、研修の充実を図る。		B
	⑨働き方改革の推進によるWLB向上	㉔学習指導等の質の向上を図りつつ、業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ㉕在校時間の自己管理や休暇が取得しやすい環境づくりを推進し、働き方の意識向上に努める。 ㉖衛生委員会等で超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	より深く考える力を育てる授業を展開するための授業改善に取り組む。	日々の時間割を円滑に運営し、生徒がよい準備のもとで計画的かつ効果的な学習に取り組めるよう、常に質の高い授業を展開する。 ②	A	3学年が揃い仕事が多様化しているため、発足時の教員が入れ替わっても持続可
		学校行事等を効果的・計画的に実施することで、生徒が意欲的に授業に取り組む環	A	

別紙様式 2 (中)

		境を整える。	①			能な教育プログラムやシステムを構築することが課題である。
		定期考査や実力考査、及び校内模試の問題検討会の実施を推進する。	③	A		
		授業の相互参観を推進し、授業改善、指導力向上の研修機会を増やす。	③	A		
新学習指導要領のねらいを踏まえた教育課程を工夫する。		新しい教育課程を踏まえ、生徒の能動的な学習活動の促進に向け、研究を進める。	③	A		
		新学習指導要領のねらいを踏まえた評価の在り方を検討する。	③	A		
		高校における医学コースや探究学習の推進を踏まえた教育課程を作成する。	⑤	A		
広報活動を充実させ、教育活動の活性化を図る。		小学生や地域社会に対して本校の魅力を積極的にPRする広報活動を推進する。	⑥	A		
		本校の教育活動の様子を、ホームページなどを通して積極的に公開する。	⑥	A		
学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。		人権感覚や人権意識を育み、人権擁護の意識を高める人権教育の実践を支援する。	④	A		
		教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒に人権感覚や人権意識を育成するために必要な総合的資質・能力を高めることを目的とした職員研修を企画する。	④	A		
		HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。	⑤ ⑦	A		
ICT 機器の効果的な活用を推進する。		生徒がクロームブックを学校生活の情報共有ツールとして活用できるよう、情報のデジタル化を推し進める。	⑧	A		
渉外部	学校、家庭、地域社会との連携と協力体制の確立に努める。	学年後援会の活性化と、連携・協力体制の充実に努める。	⑥	A	A	学年後援会との連携を今後も継続し、協力体制の確立に努める。
		学年後援会及びPTA行事への積極的な協力・参加を呼びかける。	⑥	A		
		PTA総会出席者数の増加を目指す。	⑥	A		
	就学支援制度の積極的周知	各市町村による就学支援制度の窓口として情報提供に努め、保護者が有効活用できるようにする。	⑥	A		
生徒指導部	基本的な生活習慣を確立し、節度ある生活をしようとする態度を育成する。	挨拶の励行、制服の着こなし、校則の在り方等を学校全体で考え、規範意識の高揚に努める。	④	A	A	学校全体として、アンケートや情報交換会議などを行って、生徒の安心・安全な環境づくりをすることができた。
		交通事故防止を目指し、交通ルールの遵守を徹底する。	④	A		
		移動教室時の施錠や、貴重品袋の活用等、自己管理能力を育成する。	④	B		
		スマートフォンやインターネット等の適切な利用の仕方を指導する。	④	A		
	職員・保護者・PTAが連携して、登下校時の見守り運動、校内での生活指導等を行う。	⑥	B			
	生徒の実態を丁寧に把握し、学校生活上の問題の早期発見・早期解決に努める。	学年・部活動・委員会・他の分掌との連携を密にし、生徒の実態把握に努める。	⑦	A		
	アンケート調査・面談等を実施し、いじめをはじめとする学校生活上の問題を早期に発見、解決すべく全職員が一丸となって協力して取り組む。	②	A			
特別活動部	生徒の自発的な活動を支援する。	生徒の発想や創意を活かすべく、生徒自らが企画・運営する学校行事への支援を工夫する。	①	A	A	行事後の振り返りに十分な時間が取れていないので、

別紙様式 2 (中)

		運動部・文化部等の積極的・自主的活動を奨励するとともに、学習と両立を支援する。	①	A	キャリアパスポートを活用していく。		
		キャリアパスポートを積極的に活用する。	①	B			
	土浦一高と連携した教育活動の充実を図る。	登下校時の交通安全指導を中高職員で協力して行う。	④	B			
		高校生と共に生徒会活動及び行事運営ができるよう段階的に連携を図る。	⑦	A			
教育相談室	教育相談体制を確立する	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。	②	A	A	担任だけではなく、教科や校務分掌と連携し、よりよい対応を模索する。	
		学年や各校務分掌と連携し、学校への不適応生徒の未然防止に努める。	②	B			
保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し、生活環境が衛生的に保たれるよう分担区の清掃を責任をもって実施する。	④	A	A	避難訓練を、校内だけではなく、保護者や地域とも連携したものにする。学習の支援が必要な生徒を把握し、専門機関との連携をはかり、よりよい個別指導ができるようにする。	
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。	④	A			
		火災や地震などの災害を想定した避難訓練を実施し、保護者・地域と連携した危機管理能力向上に努める。	⑥	B			
	生徒の健康管理を支援する。	検診結果に応じて生活指導を行うなど、自己管理能力が高まる指導に努める。	④	A			A
		自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、将来の実りある自己実現に向け、性に関する保健指導を実施する。	④	A			
	学習指導を支援する。	効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握し担任を支援する。	②	B			B
進路指導部	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が外部の研究会等に積極的に参加できるよう支援する。	③	B	A	高校からの3年間も見据えた進路指導計画を策定し、これまで以上に高校との連携・交流を深めていく。 生徒の自己理解を深め、進学意識や職業観について考える機会を設けるなど、総合的な学習の時間の計画を見直していきたい。	
		キャリアパスポートを積極的に活用し、将来の生き方や生活、進路や職業について考える学年行事の支援を行う。	①	A			
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や圖書の充実を努める。	③	A			
		進路情報交換会を開き、課題の発見とその解決に努め、教職員集団として共通理解をもった進路指導ができるようにするため、学年との連携を密にする。	③	A			
		学年後援会総会、保護者面談の際に、学年に応じた適切な進路情報を提供する。	⑥	A			
		必要に応じて進路通信を発行し、外部からの資料を配付するなど、生徒と保護者が進路について共通の認識をもてるように支援する。	⑥	B			
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に随時購入希望圖書を調査し、蔵書の充実を図る。	④	B	A	教科との連携を図って、図書資料を充実させたり、活用したりする機会を増やし、イ	
		蔵書の効率的利用のため、コンピュータによる蔵書管理のあり方を見直す。	⑧	A			
	読書・作品鑑賞等を通して	生徒の教養や人間性を高めるにふさわしい資料を精選し、継続的に収集していく。	④	A			B

別紙様式2 (中)

	教養を深め、豊かな人間性を養う。	生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書配置の工夫を行う。	④	B	A	インターネットの情報を含め、様々なメディアを用途に応じて用いることができるリテラシーを育成できるようにする。
		生徒の読書生活を高めるためのイベント等を工夫する。	④	B		
	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。	②	A		
		課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。	②	A		
	生徒の自主学習を支援する場として、弾力的に図書館を開館する。	②	B			
ICT活用推進室	情報教育の環境を整備し、授業でのICT機器の活用を進める。	事務室・教科・学年と連携し、PC環境の整備に取り組む。また、授業でのICT活用を推進し、ICT機器活用の事例などの紹介に努め、情報セキュリティやウイルス対策等に対する意識を高める。突発的に起きるトラブル等に対しても対応できるような用意しておく。	⑧	B	A	生徒指導部と連携した情報モラル教育を展開し、Chromebookの取り扱い方について周知徹底し、共通理解を深める。 ICT機器の適切な整備・管理・運用ができるような体制を構築する。
	情報モラルに関する意識を高める。	授業等で情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。現在の情報技術を取り巻く社会環境についての具体的事例やその対処法等について指導する。	⑧	A		
探究活動推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、附属中入門セミナー、県内外フィールドワーク、インターナショナルスクールとの交流等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し自ら考えさせる態度を育成する。	⑤	A	A	最初の3年間で終了したため、この3年間の振り返りをしっかりと行って来年度以降の探究学習を再構築することが大切で、来年度の動きが今後の附属中の探究学習を決める重要なものである。
	人的ネットワークの構築を推進する。	県内附属中学校及び県外中高一貫教育校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築する態度を育成する。	⑤	A		
	幅広い視野を養う活動を推進する。	英語スキルアップセミナー、企業・省庁訪問、OBOG講演会、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野をもった生徒を育成する。	⑤	A		
	グローバル人材の育成を推進する。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら、グローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。	⑤	B		
学年経営	すべての生徒に学ぶ楽しさを味わわせ、学習意欲を高め、学力を向上させる。	60分授業のメリットを生かし、学習内容を生徒相互で振り返る時間を設定することにより、思考力・判断力・表現力の一層の強化を図る。	②	A	A	学年主任が連携し、情報共有を常に行っているため、学習面、生活面ともに充実した活動を実施することができている。 ただ、中学1年生の学年スタートは、多くの小学校等から集まる集団になるため、人間関係づくりには、十分な配
		協働的な学びを実現する授業を実践し、認め励まし伸ばす指導の工夫・改善を通して、誰一人取り残さない指導を目指す。	③	A		
		すべての教科において、自分の考えを英語で表現する活動などを取り入れ、年間を通して英語で発信する力を育てる。	③	B		
		個に応じた学習方法等を助言するとともに、定期的に個人面談を実施し、すべての生徒に家庭学習の習慣を身に付ける。	④	A		
	学年・学級を集団として機能させながら、何事にも本気	行事では、そのねらいや意義を明確に理解させ、活動を支援していく。特に、係・委員会活動の活性化に努め、最後まで成し遂げた成就感や感動を体験させる。		A	A	

別紙様式 2 (中)

	で取り組む「一高スタイル」を継承していく。	① 身に付けた知識や技能を活用する場を意図的に設定し、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。	A		慮が必要である。	
	健康で逞しく、心豊かに節度ある生活を送れるようにする。	② ④ ① 元気なあいさつと清掃がしっかりでき、他者のために奉仕・貢献することのできる生徒を育てる。 委員会や部・同好会の活動に積極的に参加させ、集団内でのリーダーシップとフォローシップを育成する。	A A A	A		
国語科	基礎学力の確かな定着を図る。	② ② ③ ④ ③ ② ② ⑧ 授業計画を生徒と教員で共有し、主体的な予習・復習の習慣をつける。 小テストへの取り組み等を通して言葉の特徴やきまり及び語彙への関心を高める。 多様なテキストに触れ、情報の取り扱いに関する知識及び技能を高める。 幅広く古典に親しみ、伝統的な言語文化に対する理解を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつ。 読書及び教科横断的な協働学習や表現活動を授業に取り入れることで、言語運用能力を総合的に伸ばす。	A A A A B A A A	A A A		図書館が改装工事のためほとんど本を活用した授業を展開することが出来なかった。次年度は読書活動にも力を入れていく必要がある。
	探究型の学習スタイルを目指して授業を改善し、自ら学ぶ力の育成を図る。	④ ③ ④ ③ ② ② ⑧ 授業デザイン・評価・指導方法を共有する。	A A A B A A A	A A A		
	授業デザイン・評価・指導方法を共有する。	② ② ⑧ 高校との系統性を考慮したうえで、考査や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインし、効果的な単元を構築する。 単元ごとの授業内容と考査問題について協議を行い、適確に生徒の学力を評価する。 ICT機器を活用し、学習者一人一人の学びを深める。	A A A	A A A		
社会科	社会的事象の地理的・歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して授業改善を図るとともに、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。	② ② ④ ④ 地理に関する知識と、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付ける。また、それらを位置や分布、場所、人と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して思考力・判断力・表現力を養う。 我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解し、それらの時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、思考力・判断力・表現力を養う。 人権について広い視野から認識し、政治や経済、現代社会、国際社会などについて理解し、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、表現したりする力を養う。 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとする態度を養う。	B A A A	B A A	資質・能力の育成に尽力することはできたが、「テストの学力」は基礎的・基本的な学力という点で底上げが必要である。	
数学科	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開するとともに、さらなる授業改善を図る。	② ② ② 授業計画表を作成するとともに、高校・附属中の教員による相互授業参観、TT活用により、スムーズな中高連携を図る。 授業重視を徹底するとともに、日常の自己学習も徹底させる。 授業中心の学習計画を立て、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。	A A A B	A A A		高校・附属中の教員によるTTは、非常に効果的であったため、今後も継続していきたい。

別紙様式2 (中)

		授業担当者間の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。 ③	A		
		基本事項の理解を徹底するとともに、試験前等の問題演習を十分に行う。 ②	A		
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。 ③	A		
理科	自然に対する関心や探究心を高めるための授業改善を図るとともに、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め、発展的な内容や話題について提供する。 ②	B	A	実験室改装に伴い、実験・観察の実施については困難が伴った。その中でも単元の入替え等工夫し、必要十分な実験・観察を行うことができた。次年度は実験・観察教材の研究に努めたい。
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組ませ、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容についてのレポートの作成や発表を通して、学力の定着を図るとともに科学的な思考力や表現力を養う。 外部講師による「科学実験講座」等を実施し、発展的内容に触れさせることで科学的探究心を育てる。 ③	A		
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより、科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育成し、科学的現象に対する学習意欲を高める。 ②	A		
保健体育科	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識をもたせるように指導する。	集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力・連携して活動する態度や、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。 ④	A	A	全体的に運動に取り組む意欲は高いため、日々の授業にも多くの生徒が積極的に取り組んでいる。 特に文化部の生徒は、体育の時間しか運動する機会がない生徒も見られるので、運動量の確保に努めていきたい。
		集団の特性に応じた、ゲームの工夫や技能を高める実践的能力や態度を育成する。 ④	A		
		準備や片付けを率先して行う態度を養い、集団や社会に寄与する精神を育てる。 ④	A		
		保健において、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。 ④	A		
	運動の実践と授業改善を通して、体力の向上、困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	克服的な種目（水泳・長距離走）を実施することで、チャレンジ精神を養い、体力の向上や達成感を味わわせる。 ②	A		
		苦手なことにも取り組みやすいように、工夫した指導や声かけを行い、学びに向かう姿勢を重視する。 ②	A		
		個人スキル向上のために、ドリルや発問の仕方を工夫し、発展したゲームが展開できる力を育成する指導を行う。 ②	A		
	体育的行事を推進し、主体性や計画・実践する能力を高め、人間性を涵養する指導を行う。	体力テストを通して自己の体力を客観的に評価し、日頃から健康への意識を高め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。 ②	A		
一高オリンピックを生徒が主体的・計画的に行えるよう支援し、望ましい人間関係の形成や集団への所属意識や連帯感を深め、よりよい学校生活や社会生活を築こうと		A			

別紙様式 2 (中)

		する自主的・実践的な態度を育てる。	①			的な活動を支援する。
	運動・スポーツ活動における健康・安全指導を充実させる。	運動部員が、学級や学校行事でもリーダーシップを発揮できるよう、指導育成する。	④	A	A	
		活動中の健康観察を徹底し、気付いたことを積極的に伝えるようにする。	④	A		
		健康、安全に関する自己管理能力を育成する。	②	B		
音楽科	多様な表現活動を通して音楽における表現・鑑賞の楽しさを味わうことができる授業を展開し、生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させ、音楽に親しむ心情を培う。	②	B	A	合唱および和楽器の学習は想定以上。 合奏と鑑賞により余裕を持った時間がほしかった。
		学習指導要領に沿って、中高一貫における生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫し、授業の改善を目指す。	③	B		
		生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、音楽の諸能力の向上を図る。	④	A		
		相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。	③	A		
美術科	多様な表現活動を通して美術における表現・鑑賞の楽しさを味わうことができる授業を展開し、生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させ、美術に親しむ心情を培う。	②	A	A	作品が予定時間内に完成せず、相互鑑賞や言語活動の時間が充分に取れなかった。 次年度は教材サイズの見直しを検討したい。
		学習指導要領に沿って、中高一貫における生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫し、授業の改善を目指す。	③	A		
		相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。	③	B		
技術・家庭科	家庭や地域の生活課題を主体的に解決するために必要な知識と技術を習得し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。	各分野において授業を改善し、生涯を見通して生活を設計し、創造する力を引き出す授業や実習を研究し、発展的な知識・内容についても提供する。	③	A	A	今後も技術科と家庭科を連携して進めていきたい。
		授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を主体的に解決する態度や適切に判断し工夫し創造する力を育成する。	②	A		
		技術の習得については、生徒一人一人の能力にあった個別指導を充実させる。	③	A		
総合的な学習の時間	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動を行うにあたり、ポストSGHを勘案しながら、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し、自ら考えさせる態度を育成する。	⑤	A	A	他中学校との交流が学年単位で行うことができなかった。生徒間の人的ネットワークを構築するために教員間のネットワークをさらに構築し、交流できるようにしたい。
	人的ネットワークを構築する力を養う。	水戸一高附属中学校との交流、国内・海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築できる態度を育成する。	⑤	B		
	英語力とICT技術を養う。	将来グローバル社会で活躍するために必要となる国内外の社会・文化の諸問題の理解力を、外国人教師の授業等を通じて育成する。	⑤	A		
		一人1台端末を活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。	⑧	A		
	幅広い視野を養う。	文化講演会、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視		A		

別紙様式2 (中)

		野をもった生徒を育成する。 ⑤			
	コミュニケーション能力を養う。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。 ②	A		
英語科	分かりやすい授業を展開できるよう授業を改善し、実践的コミュニケーション能力を養う。	教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある分かりやすい授業を展開する。 ③	A	A	今年度は、3学年のみ県外や海外の生徒とオンラインでの交流を実施できなかったため、来年度は全学年で実施したい。
		英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ①	B		
		読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸ばせるような授業を展開する。 ④	A		
	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。 ②	A	A	今年度は、他学年との英語での交流会を年1回実施したが、来年度は年2回実施したい。また、考査前の補習を実施するなど、学力差に対応する指導の更なる充実を図りたい。
		表現力を向上させるパフォーマンステストを、年間を通して実施する。 ③	A		
		英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ③	A		
		スピーチしたり、スピーチの内容についてやり取りをするなど、学んだ英語を活用する授業を展開する。 ③	A		
		授業内にペアワークを積極的に取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。 ④	A		

※ 評価規準：5段階評価 A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった